

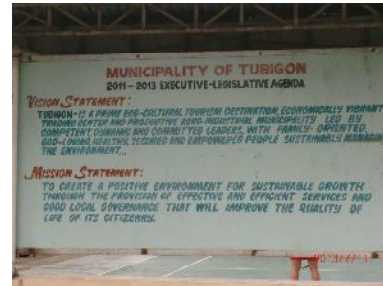
トゥビゴン市 概要

2013 年 7 月

行政単位： municipality（ボホール州ではタグビラランのみが City である。ここでは、区別するために日本語では「町」と表記する）



町役場正面



正面脇の掲示板には町のビジョンと戦略。
財務報告も掲示されていた。

2010 年収入：101,221,619 ペソ。うち地方税収入は 44%。

2011 年予算：113,447,700 ペソ。

地理的位置： フィリピン ボホール諸島。ボホール州都でもあるタグビララン市より北 54 km。車でおよそ 1 時間半。ボホール島西沿岸。セブ市の南方に位置し、高速船で約 45 分。周辺 6 島にも居住。

気候： 年間平均気温 28.6 度 C。11 月～1 月が比較的涼しく 26.4 度 C。乾季は短く、ほぼ年間を通して湿潤なモンスーン気候。

災害リスク： 特に沿岸地域での津波、暴風雨、洪水等

面積： 81.87km²

人口： 44,434 人（2007 年センサス）。ボホール州で 4 番目の規模の町である。人口は 1995 年から微増。中心部よりも周辺地区で人口が増加し、開発の進展を示す。2020 年予測人口は 57,183 人。

人口密度： 543 人/km²

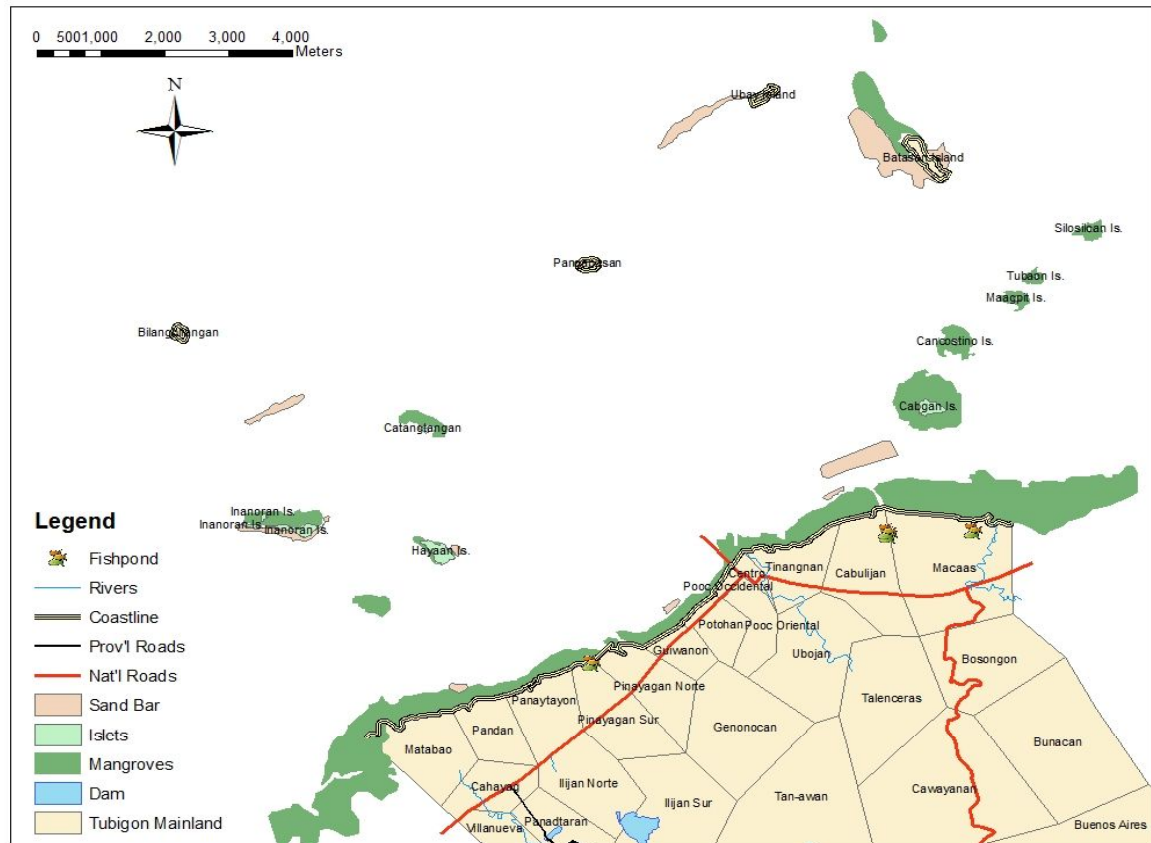
人口構成： 男性 22,485 人。女性 21,907 人。1～4 才および 60 才以上では女性が多い。半数以上が若年層である。



町役場の掲示板に貼られたハザードマップ

世帯数：8,965 世帯（2007 年センサス）。5.24 名/世帯

バラングイ（地区）数：34。本島内に 28。その他周辺の島に 6。地区毎の人口は中心地区 2,769 人から人口が少ない沿岸部や島で 202 人が最小である。



マングロープ植林活動：マングロープ林は多くの水生・陸生動植物が生育し、海岸浸食を防ぐ役割も果たしている。かつて多くのマングロープを伐採したが、マングロープがもたらす漁業生産力が高いことがわかり、今では積極的に植林している。12 バラングイに 498.58 ヘクタールのマングロープ林がある。各バラングイの人々が、地区の植林に従事している。



新たなマングロープ植林地域。杭は船を近づかせないため

学校数：小学校 25、中・高校 7（6 年制、うち 4 校が公立）。その他保育園や、カレッジ 1（私立）、職業学校 2

公立学校には、図書館、実験室や医務室がないところが多いが、各校に運動場や少なくともトイレは 1 か所ある。

基礎教育課程では、教師 1 名あたり生徒 40 名で、ほぼ基準を達成。ただし特に公立中・高校では経験のある教師や教室が不足しているところがある。その他教育部門では、卒業後の雇用口や現場実習機会がないこと、就学前児童のための幼稚園（？ Pre-school）のない地区があること、トイレや図書館、水供給施設等の不足が問題。



中心地区の広場で、放課後の学生たち

住宅：約 97%が戸建であり、その 82%が亜鉛

メッキ鉄板/アルミニウム板、12%が茅やニッパ等の材料葺。およそ 85%の世帯が住宅を所有し、約 11%が所有者の同意の下に無料で住宅に住み、4%が賃貸している。2007 年時、11 世帯が不法に住宅に居住。その他合計 340 世帯がインフォーマルな居住を行っている。

水道事業：レベル III（？）水システムの状況：34 の内 12 バランガイに町営水道が供給。水源は泉 1、深井戸 8。5 つ貯水池があり、総貯水量 469m³。BIWSSMP（ボホール総合水供給システムマスタープラン）データによれば、2007 年 7 月現在、水供給箇所数 1,733。

水システム 9 のレベル II 水システムで、987 世帯に水が供給され、630 世帯がレベル I の故障のため、544 浅井戸、23 深井戸、63 湧水くみ上げで対応。井戸を掘ったり、川、湖、泉の水や雨水、もしくは水行商人からの水を買う世帯もある。雨水は集水や貯留状態により安全性も異なる。水行商人の売る水が、飲料水としては最も安全でない水のひとつである。安全な飲料水が得られないことが、衛生状況を悪くし、各種の疾病や幼児死亡の原因になっている。

電力供給：NPC からの電気を、ボホール電力組合 I（Bohol electric Cooperative-I）が、トゥビゴンの 34 バランガイ全部に供給。

約 89%の 9,064 世帯が電気を利用。残りの 11%は（町内の周辺の）島や離れた農村地区。1 中継所、1 計測所、電柱 1,132 本、照明灯 622 がある。しばしば起こる停電や、島での電力供給時間の制限（夜 10 時まで）等が課題になっている。

水力発電所 3 か所（ボホール州内に？）あり。電力は輸入に頼っているため、電気料金は



町一番の繁華街



港には太陽パネルの照明灯も

為替レートによりで変動し高い、11 ペソ/kwh。

農村部では燃料には薪を利用。燃料用の木の伐採について尋ねたところ、薪には間伐材を利用。1 本伐採したら 10 本の植林をすることが決められており、違反者を見つけたら通報するシステムを設けているとの説明だった。

廃棄物処理：町の人口集中地区 27 バランガイでの廃棄物収集は週 2 回、農村部は 1 カ月に 1 回。6 島では 2 カ月に 1 回収集。全世帯の 25%が生ごみのコンポストを実行。36 名が街路や広場の清掃やごみ埋め立てに従事。毎日 2 台のゴミ収集車と 1 台のゴミ破碎機が稼働。Maccas バランガイに、3.5 ヘクタールのゴミ埋め立て場がある。埋め立て場地域にあるエコロジカル廃棄物トレーニングセンターとリサイクリングセンターを、“Municipal EcoPark”という名称にし、訪問者の教育センターにする予定。Poblacion 市場と Macaas 埋め立て場には、コンポストセンターがある。

排水処理：トゥピゴンには集中管理の排水システムや下水システムはなく、これが生活衛生状況を悪くし、エコシステムへの悪影響をもたらしている。水汚染の原因は、家庭や農業、工業部門からの汚水で、埋め立て場からの浸出、工場排水や降雨による流出等を含む。家庭や病院、埋葬所からの汚物・汚水が直接地下に浸透したり海岸まで運ばれ、地下水や沿岸の汚染をもたらしている。

主要産業：農・水産業、サービス業。

8,186 ヘクタールのうち、耕作地は 3,447.7 ヘ



街路はマニラ等に比べてゴミがなく、清潔な印象を持った
中心部は交通量が多い。

クタール。小規模農業で、ココナッツ、米が主な農作物。米作農家の耕作地は平均 0.6～2 ヘクタール。

また、セブ市に近いため、ボホール北部の商業交易地の中心になっている。

商業地区は Poblacion 地区で、市場を中心に 300 店舗が集まっている。



電器店店頭



その他、ラフィア（植物繊維の 1 種）織物組合の織物工場（オーストラリアの ODA 協力による。JICA も協力したようである。60 名参加）の他、家具・竹製品、陶器等の家内工業が行われている。工業地区造成により、水産・食品加工業等の誘致を計画。

また、海岸や島のエコツアー開発可能性もある。



ラフィア織物組合の工場



JICA のロゴも

生活の様子：市内中心にある Pooc Occidental バランガイの女性リーダーの協力を得て、地区の2家庭を訪問した。



入口の部屋にパソコンを数台置いて利用サービス業をしている裕福な家庭。



広い居間。テレビ、ステレオ等がある。



居間の奥に食堂、その奥に台所。5人家族とのこと。ご主人に案内していただいた。家族5人で昼食中。左端に冷蔵庫が見える。

もう1軒は、奥さんが丁度家におられたが、他の家族は外出中。一部が板葺木造の2階建ての家である。



居間。家族の写真が飾ってある棚にラジカセがある
テレビも隅に2台置いてあったが、1台は古いもの。



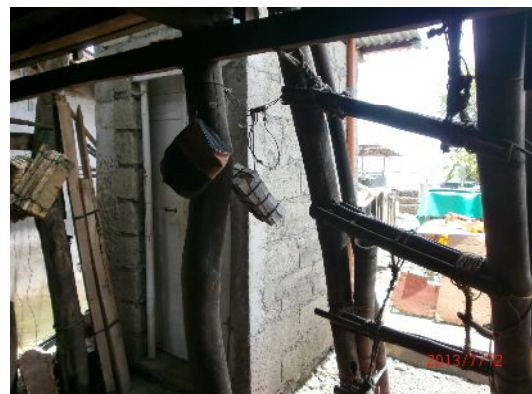
食堂テーブルに丸椅子8つ位。天井に蛍光灯一つ



水場。きれいに片付いていた。



調理台。薪を使っている。



2階に上がる階段梯子。左奥はバランガイリーダーが米国からの寄付を得て作ったトイレ。

トゥピゴンの人たち



6月に就任した新市長



イクレイ担当窓口の、トゥピゴン町計画部部長
のノエルさん



案内してくれたバラングイのリーダー。奥に水道の供給
管が見える。



ノエルさんの下で会議の準備や案内をしてくれた
アモールさん



7月12日の準備会議では、バラングイのリーダーたち（ほぼ半数が女性）も研修事業に色々な提案をしてくれた。



